

コスカシバ退治

梅雨の真ん中、数日前から当日の午前中までは雨や曇りのくり返しだった天気も、午後1時には霧雨状になり、やがて止んだ。絶好のコスカシバ退治日よりで、桜の木肌はすっかり濡れていた。ヤニは、晴天であればこちこちに硬くなりキリも曲がってしまうが、今日は柔らかかった。コスカシバによって食いあらされた箇所にはヤニが噴き出していた。しかし、雨で溶けてしまったヤニもあるようだ。全体的にヤニの数は少なかった。



上北沢地域外から、2人の応援が来てくれた。200か所にもなるヤニをほじくる作業を、雨交じりの中、助けていただいた。

●日時：7月2日（木） PM2：00～4：00

●参加人数：8名

●作業手順：

- ①ドライバーやキリのような先のとがったもので、ヤニの出ている箇所にいるコスカシバ幼虫を見つける。
- ②そして、幼虫をつぶす。
- ③木の幹をほじくった後、殺虫剤（キンチョールE）を穴に吹き付ける。
- ④消毒ペースト（トップジンMペースト）を塗込

●結果

- ・平均すると、1本につき3個から4個のコスカシバのヤニが見つけた（合計で150から200か所）。
- ・コスカシバは、この時期、幼虫から成虫となって、さなぎの抜け殻を残して、飛び立ってしまったのか、少ない。スカシバコンのフェロモンかく乱の針金管を増やしたことによってその効き目があったか否か不明。
- ・結論として、今年は、コスカシバが減っているようだ。
- ・幼虫の捕獲：大小9匹、さなぎの抜け殻：1ヶ（長さ18mm、直径3mm）。



（記：佐藤）